

1. 開業助産師の問診力 講師 川野 敦子先生 助産院町のさんばさん院長
2. 社会保険田川病院における助産師外来、院内助産の立ち上げから現在の状況・助産師の思いについて
講師 仲村副看護部長 石川病棟師長 助産師スタッフ 社会保険田川病院

研修の前半は、問診票を埋めるためだけの単なる問診ではなく、問診力についてのお話で、問診は、診断のためだけに行うのではなく、(治療) 効果を何倍、何百倍にもできる力が有る。人に話を聞いてもらえた、自分のことを分かってもらえたと思えて安心した方は、もっともっと自分のことを伝えたい。それには、自分自身のことを整理して話す必要が出てくるため、自然と自分自身と向き合えるようになり、本当に望んだ方向へ進みたいと認識することが出来るようになる。

そして、相手を知るための診察はいずれも自分の五感を使っての行為なのでまず自分を知り(反転の実習あり)、心からの笑顔で、自己紹介は短めに、チームプレイで、『間』を考えつつ、出来れば体に触れながら進め、信頼をしてもらうことが大切という事でした。

研修の後半は、産科閉鎖の危機から一転、院内助産院を立ち上げられた田川病院の貴重な立ち上げまでの経過、苦勞、ポイントについてのお話でした。

平成 27 年 8 月に翌年度から医師の派遣中止の決定を受けて、同年 9 月にはじめて病院の方向性を決定し、平成 29 年 4 月には、助産師外来が整った上で院内助産を開始するというスピードプロジェクトでした。そこに至るまでの、組織づくり、指導者としての役割、産科及び小児科スタッフ全員の理念の一致を図るまでの過程、人材の大切さ、人材を育てるための状況の整備など、どれ一つ欠けても院内助産院を始めることが出来なかった大切なポイントや石川病棟師長による現状、助産婦外来、分娩件数のお話の後に、立ち上げに携わったスタッフの方々も交え、貴重な質問会も行われました。

前・後半どちらのお話にしても、川野先生のお話を聞きたい、院内助産立ち上げ中で内容を知りたいなど、真剣に興味を持った方々においでいただいたため、研修会後のアンケートには、「もっと深く(または具体的に)知りたかった」「元気になる話だった」「自身を見直す機会になった」「院内助産を進めてみたいと思った」「理念共有の大切さを知った」など、目的の達成や意識の変化についても、達成やほぼ達成されたとの意見のみで、有意義な研修会でした。

先生方、本当に有難うございました。



平成 29 年度 第 6 回助産塾スキルアップ研修会 平成 29 年 10 月 29 日

「理学療法士による赤ちゃんの発達」頤座・寝返りまでを促すケア

講師 山野井 恵摩氏 (株式会社 ままこや代表)

日ごとに、秋の深まりを感じる頃となって参りました。研修当日は台風と秋雨前線の影響が残り、小雨が降ったり止んだりのあいにくのお天気の中、10月29日に熊本から山野井先生をお迎えし、ご講義いただきました。

参加の方々は、20歳代から60歳代。所属は助産師学生・病院診療所勤務や開業、行政(保健所、市町村の保健センターや子育て支援センター)や、無所属の助産師・保育士などで、はるばる県外からも参加されていました。参加総数は62名で、アンケート結果からは、様々な立場の専門職の方に関心を持って研修を受けていただけ、理論と根拠、指導する際の伝え方など実践的で満足度も高い講義内容だったことがわかりました。

参加の動機としては、病院や診療所などでの勤務の方々の中には「初めて聞く内容。赤ちゃんの発達を詳しく学びたい」、「妊産婦さんへのアドバイスに自信を持って伝えたい」、「理学療法士さんの視点からの発達を促すケアとは何かを学びたい」などがありました。また、実際に市町村などで妊産婦教育・新生児訪問・乳幼児健診や相談業務に携わっている方々からは、「日頃の訪問で、お母さん方からよく質問されたりするので相談に生かしたい」、「仕事にとっても役に立ち、現場に生かせる内容だと思ったから」、「スキルアップのため」といった内容のものが多いようでした。

講師の山野井先生は理学療法士として病院や乳幼児健診など多方面からの発達の分野で理学療法を実施してこられた後、「赤ちゃんの発達教室ままこや」を立ち上げられました。そして本年度からは「運動特化型発達支援事業」を行政・小児科・保育園などと連携、事業を展開しておられます。講義では、まず「赤ちゃんの正常な発達過程においては発達要素が立って歩くための筋肉や骨格を作っていることや胎児期からすでに筋肉や運動を準備していること」、「発達上の問題が運動機能さらに認知機能にも影響を及ぼすこと」、そして発達に問題のある赤ちゃんが増えており、「乳幼児健診で見られる問題点やママの悩み」、「発達上の問題は育児期のママに負の連鎖を起こすこともある」などは実際の業務に携わっている方々も感じておられたことではなかったでしょうか。さらに、理学療法からの正しい「だっこ・うつ伏せ」の理論と実践を、先生の実技やグループ実習を通して、参加者が連れて来られたかわいい赤ちゃんにもモデルさんになっていただき、分かりやすく学習を深めることができました。

研修を終えて・・・「からだを動かす訓練」としてのみではなく、個人差や個性を大切にしつつ、「楽しさを親子ともに味わい、ママが関わってあげられる、ママができる！」ことで、もっとたくさんの楽しみ、体験や経験できることへとつながればと思います。学んだことをすぐに実践や生かせ、今後へとつなげることができる意義のある内容でした。

山野井先生、貴重なお時間をありがとうございました。

文責 森岡由己子

